

2018年度事業報告

(2018 年 4 月 1 日総会議決日から 2019 年 3 月 31 日まで)

1、フードバンク事業

まだ食べられるにも関わらず、さまざまな理由で処分されてしまう食品等を個人や企業から寄贈してもらい、地域の福祉施設・団体及び生活困窮者個人に提供する事業です。

今年度も市庁舎フードドライブをはじめ地域のイベントでの食品寄贈活動を積極的に行い、生協 4 団体の協力や常設受付先への市民の寄贈量の増大もあって、新たなひとり親支援事業など支援食品需要の拡大に対応した食品等を集めることができました。7 月には 12 団体参加の団体交流会を開催し、地域の仕組みとしてのフードバンクへと着実に前進できてきました。

(1) フードドライブ (図 1 参照)

① 地域のイベント等でのフードドライブ

今年度は計 8 回の実施で合計 369kg (昨年度 544 kg) の食品寄贈がありました。

2018 年 5 月 19 日	第 2 回通常総会	7 kg
6 月 3 日	こまエコまつり	107.3 kg
7 月 14 日	フードバンクとつながる団体交流会	0.4kg
10 月 6 日	くらしフェスタ	7 kg
10 月 15~17 日	狛江市庁舎で世界食料デー展示	124.8 kg
11 月 10 日	パルシステム狛江センター防災まつり	69.2 kg
11 月 18 日	狛江市民まつり	28.4 kg
2019 年 3 月 8~10 日	中央公民館の集い	25 kg

計 8 回
合計 369kg

② 生活協同組合 3 団体のフードドライブ

生活協同組合によるフードドライブ食品の寄贈は、東京南部生協から設立当初から年 2 回実施され、東都生協入間センターによるフードドライブも昨年度から年 2 回実施されました。またコープみらい 4 ブロック委員の皆さんによる染地店でのフードドライブは毎月第 3 木曜に行われるなど生活協同組合の食品寄贈の拡大は大きな支えになっています。



'18 年 9 月・'19 年 2 月	東都生協入間センター	560.9kg
'18 年 10 月・'19 年 2 月	東京南部生協	469.1kg
毎月第 3 木曜 11 回開催	コープみらい染地店フードドライブ	110.2kg

③ 常設の食品寄贈は昨年の 1.8 倍に増加

食品寄贈受付場所は、2018 年 4 月 26 日からは狛江市社会福祉協議会(あいとぴあセンター内)に設置され、市内 4 カ所に常設の食品寄贈ケースが設置されています。また、毎月第 1 火曜には狛江市ビン・缶リサイクルセン

ターでフードドライブを実施していて、市民がいつでも食品寄贈ができる仕組みを作ってきました。

①	16年9月～	市民活動支援センター こまえくぼ 1234
②	17年7月～	こまえ正吉苑（西野川）
③	17年8月～	こまえ苑（岩戸南）
④	18年2月～	狛江市ピン・缶リサイクルセンター（月1回）
⑤	18年4月	狛江市社会福祉協議会（あいとぴあセンター）

寄贈量 827.5kg
（昨年比約 1.8 倍）

④ 企業・団体と、市民からの食品寄贈量

年間を通して定期的にコカ・コーラボトラーズジャパン(株)、賛助団体の三色パステルアート、福島県産のお米を提供する東京すずらんの会から寄贈がありましたが、企業・団体入庫は昨年度とほぼ同じでした。他に全国フードバンク推進協議会からの斡旋と狛江市や電話・メールによる企業・団体からの災害備蓄品等の受入れを行いました。継続して他都市から届く寄贈品はありますが、それ以外の宅配便で届く食品や市民から持ち込まれるものは昨年度に比べて約 200 kg少ない結果となりました。広報によって市内の常設寄贈先が知られるようになったからと思われます。



	企業・団体寄贈量	市民の直接寄贈量
2016 年度	1,294 kg	1,019 kg
2017年度	5,083 kg	2,015 kg
2018 年度	5,289 kg	1,840 kg

2018 年度食品等を寄贈いただいた企業・団体様一覧

お寺おやつクラブ:安養寺/コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社/東京すずらんの会/公益財団法人日本心臓財団/三色パステルアート/有限会社ダスカジャパン/フードバンクかわさき/マルコム株式会社/生活協同組合コープみらい/株式会社ル・ブルターニュ/ドクタージャパン株式会社/丸紅株式会社/ロイヤルインダストリーズ株式会社/清水建設建築部/フードバンク調布/浦安市役所/フードバンク山梨/ハッペキングダム/狛江ハイタウン管理組合/中越バルブ工業株式会社/フードバンク新潟/株式会社オシザワ/パナソニックホームズ株式会社/東都生活協同組合/東京南部生活協同組合/喜多見やの耳鼻科/狛江市役所安心安全課/東京ガス株式会社西部支店/東京都消費者生活センター/日大商学部秋川ゼミ/お寺おやつクラブ:腎隆山久遠寺/ボーイスカウト狛江第3団/ニチイケアセンターいずみこまえ/ふうとばんく東北AGAIN/ろばや/ライオンズマンション喜多見管理組合/品川インターシティ/フードバンク千葉/お寺おやつクラブ:華厳院/株式会社宮田/NPO法人えるぶ府中派遣村

(2) 地域の福祉団体への食品提供 (図 2、図 5 参照)

① 連携する団体は一団体増え、延べ 116 回、約 3,725 kg (昨年度 137 回、3,516kg) の食品等を提供しました。

食堂系団体	こども食堂、困窮者向け食堂など	5 団体
市内諸団体	障がい者（児）、子ども、高齢者、困窮者支援団体、地域福祉団体	9 団体
市外諸団体	困窮者支援団体、福祉施設、簡易宿泊所など	3 団体

② 周辺や他のフードバンクとの寄贈食品のシェア

設立当初から連携してきたフードバンクかわさきと、昨年4月から実質的な活動を開始したフードバンク調布と食品のシェアで連携してきました。またひとり親支援では不足するお米の調達に、全国フードバンク推進協会を通じてフードバンク山梨 150 kg、フードバンク新潟 60 kg、ふうとばんく東北 AGAIN90 kg、フードバンク千葉 90 kg の計 390 kg 提供を受けています。

	食品在庫量	食品出庫量
フードバンクかわさき	29 kg	437.3 kg
フードバンク調布	549.4 kg	64.8 kg

2、食のセーフティーネット事業

行政、社会福祉協議会、施設や団体、学校または町会などと連携協働して、無償で生活困窮者に対して食料支援及び必要に応じて各支援団体につなぎ、生きるサポートを行う事業。

狛江市の生活困窮相談窓口こま YELL と連携した食料支援回数は月平均 56 件に増え、こま YELL の学習支援世帯へのお菓子や飲料の提供も継続しています。2018 年度はさらに支援が届いていない困窮世帯に繋がるために、子育て支援課の協力で学校給食のない時期にひとり親家庭への食料支援を実施しました。

(1) こま YELL を通じた食料支援

① 増加する支援要請への対応と食料提供の状況 (図3参照)

今年度も毎週月木曜開所日にこま YELL から翌週の食料支援依頼書(個人情報のため氏名は番号表示で対応)を受け取り、世帯の細かな情報に合わせた食品のセットを行い、納品書を記入して提供してきました。

年々支援回数は増加し月の平均支援回数は月 56.8 回、食品支援量も年 4 トン近くになりました。月 2 回以上の継続支援は約 7 割に増えていますが、積極的な食品寄贈活動によってバラエティー豊かな食品を提供することができました。また利用者の年代別構成では 20 歳代・30 歳代が増加しています。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
月の平均支援回数	20 回	39.8 回	56.8 回
食料提供回数	233 回	478 回	682 回
食料支援量	1,112kg	2,780kg	3,955 kg



② 学習支援世帯へのお菓子や飲料の提供

こま YELL の生活困窮世帯を対象とした家庭を訪問しての学習支援に、今年度も夏休み前やハロウィン、クリスマス、卒・入学時期、17~18 世帯に延べ 56 回約 134 kg のお菓子や飲料を提供しました。昨年 9 月と今年 3 月に開催されたこま YELL の学習支援ボランティア交流会に参加し、子供たちの学習意欲を高め大いに喜ばれているなど知ることができました。

③ 三者協議の実施状況

狛江市福祉相談課とこま YELL、フードバンク狛江で三者協議を昨年 6 月・8 月、今年 3 月に開催しました。10 月の狛江市庁舎ロビーで開催したフードドライブと活動パネル展示では、今年度も共催で取り組みました。

(2) 学校給食のない時期にひとり親子育て応援として、緊急食料支援を取り組みました。

「見えない貧困」にどう取り組むかの課題から、一昨年度は小中学校を回ってフードバンクの周知と活用を

呼びかけましたが成果を上げることができませんでした。そこで狛江市ひとり親家庭アンケート結果などを見て狛江市子育て支援課の協力でひとり親家庭を対象に、夏は児童扶養手当現況届提出の案内に、冬はひとり親医療費助成証発送時に「学校給食のない時期の緊急食料支援申し込み案内」を同封する形で実施しました。

■ 支援申し込み数:

	世帯数	総人数	高校生以下人数	世帯主他の人数	支援食品量
2018年夏休み	44	122	67	55	431.5 kg
2018年冬休み	50	136	77	59	506.3 kg
2019年春休み	39	106	62	44	376.1 kg

■ 子ども(高校生以下)の人数内訳

	小学生未満	小学生	中学生	高校生
2018年夏休み	7人(11%)	29人(43%)	17人(25%)	14人(21%)
2018年冬休み	12人(15.6%)	29人(37.6%)	20人(26%)	16人(20.8%)
2019年春休み	9人(15%)	21人(34%)	18人(29%)	14人(22%)

■ 人数別世帯数内訳

	2人世帯	3人世帯	4人世帯
2018年夏休み	17世帯(39%)	20世帯(45%)	7世帯(16%)
2018年冬休み	19世帯(38%)	26世帯(52%)	5世帯(10%)
2019年春休み	14世帯(36%)	22世帯(56%)	3世帯(8%)

この取り組みを通じて、狛江市のひとり親世帯がこれからも受けたい支援策として期待されていることが明らかになりました。またアンケートの回答から食料支援だけでなく、子育てするひとり親やその子どもにとって、励ましや支えになっていることを知る機会となりました。また、冬休みの支援では資金調達のためにクラウドファンディングFAAVOに取組み、目標額の138%を達成し208,000円の支援金を獲得しました。(冊子の事業報告参照)

(3) こま YELL 以外の緊急食料支援の状況

今年度も他都市からの SOS や支援窓口が閉まっている時の市民からの SOS などに、原則一度限り緊急支援であることの了解のもとで食料提供を実施しました。その際には継続支援が必要か状況を聞いて、できる限り公的・民間の支援団体や他のフードバンクの紹介をしてきました。今年度は14世帯に20回190.5kg(昨年度14世帯22回357.4kg)を提供しました。



3、フードバンクの普及・啓発事業

市庁舎でのフードドライブ&世界食料デーのパネル展示をはじめ、初めて参加した市民祭りなど年間を通じたイベントでの広報に力を入れるとともに、食品寄贈を呼びかけるチラシの全市内配布・掲示を3回実施しました。また「フードバンクとつながる団体交流会」を開催し、活動内容を知ってもらうなど交流を図りました。ひとり親子育て応援での食品支援では SNS を積極的に活用しました。こうして市民に知ってもらう機会を増やすことで、食料支援の需要増に対応する食品寄贈を確保することができました

(1) 地域のイベントへの参加・開催

- ① 地域の5つのイベントに参加して広報を兼ねたポップコーン販売とチラシの配布を実施しました。また、2018年5月・11月と2019年3月の小型家電実験回収日に、清掃課の協力でチラシ配布を行いました。

	地域イベント名	広報(チラシ内容)	ポップコーン販売	FD参加
2018年 6月3日	こまエコまつり	夏休み子育て応援	220食	20名
10月6日	くらしフェスタ	世界食料デーFD	68食	13名
11月10日	パルシステム狛江センター防災まつり	冬休み子育て応援	47食	12名
11月18日	狛江市民まつり	冬休み子育て応援	200食	15名
2019年 3月8~10日	中央公民館の集い	春休み子育て応援	—	18名

- ② 2018年7月には「第一回フードバンクと繋がる団体交流会」を開催しました。フードバンクを地域の仕組みとして根付かせるため、食品の提供をする地域の食堂系4団体をはじめ12団体34名と初めて交流会を開催しました。お互いの団体の日頃の活動内容を知り、またフードバンク活動を知ってもらうことで直接の感想や意見を聞く良い機会となりました。
- ③ 世界食料デーのパネル展示とそれに伴う広報活動

狛江市庁舎ロビーでのフードドライブと食品ロス問題の啓発活動として、昨年度に続き10月にパネル展示で世界食料デーとフードバンクの広報を行いました。事前にWFP国連世界食料計画日本事務所を訪問して写真パネルを借りての展示や、狛江の子ども(おとな)食堂マップと常設の食品寄贈受付所マップなどを展示しました。

期間	パネル展示内容	広報活動	FD参加	来場者
10月15日~17日	<ul style="list-style-type: none"> WFP 食料支援写真パネル 食品ロスを活かす取組みの紹介 ごはんマップと活動紹介写真 	<ul style="list-style-type: none"> チラシ 3,000枚配布 町内会回覧板・掲示板 広報こまえ、公営掲示板 公共施設、スーパー等 	延べ 49名 (昨年: 49名)	延べ 60名 (昨年: 76名)



④ 理事長による講演

三鷹市社会福祉協議会と全国フードバンク推進協議会の依頼を受け、三鷹市でのフードバンク立上げに向けた講座で田中妙幸理事長が講演を行い、動画などを用いた資料を作成してフードバンク狛江の活動を紹介しました。すでに「フードバンクみたか」として活動を開始しています。

(2) 媒体を利用した広報活動

各媒体を通して、食品寄贈やボランティア希望、困窮者からの食料支援 SOS の連絡が寄せられました。

① 紙媒体

イベント・講演会開催に向けてチラシやポスターを作成し活用しました。今年度はチラシの作成に「あいとぴあ助成金」「中央ろうきん社会貢献基金助成金」を一部活用しました。

ニュースレター	2018年6月No.15、9月No.16、11月No.17、2019年2月No.18の4回発行。
チラシ * 公営掲示板・公共施設・町内会・スーパー等で配布/掲示	6月 5,000 枚:夏休み子育て応援、9月 3,000 枚:世界食料デーFD 11月 4,000 枚:冬休み子育て応援、1,700 枚:FAAVO(CF) 支援金募集 11月 1,000 枚:ビン・缶センターFD 周辺個別配布 = 合計 14,700 枚

② インターネット媒体

facebook	週一回の随時更新 https://www.facebook.com/foodbank.komae/
ホームページ	イベントの告知や報告随時更新 https://fb-komae.org/

③ テレビ、新聞、雑誌など

- 2018年 = 6月:朝日新聞掲載 / 7月:調布FM街角インタビュー出演 / 7月:毎日新聞に掲載
9月:JA 雑誌「地上」掲載 / 10月:朝日新聞に掲載 / 12月:J.COM「狛江人凶鑑」理事長出演
12月:朝日新聞に掲載 / 11月:調布FM街角インタビュー出演
- 2019年 = 1月:読売新聞に掲載

④ その他

- ・㈱和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板や支援者宅での掲示。
- ・市のビン缶リサイクルセンターフードライブやイベント実施時に当団体活動紹介パネルを展示。

(3) 学生の研修受け入れによる普及活動

フードバンクの普及活動の一環として、できる限り学生等の研修受け入れを行った。

2018年8月:筑波大付属高校生研修 / 9月:国学院大ゼミ生研修 / 10月福祉カレッジ受講生研修
2019年2月東海大ゼミ生研修

4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

今年度は、夏休み・冬休み・春休み子育て応援に申し込みのあったひとり親家庭に案内アンケートを実施した。
(詳細は実施報告書を参照してください)

5、事業を支える組織基盤と運営の安定化を図りました



(1) 食品管理方法の見直しと事務所機能の強化

① 食品提供・管理方法の改善

食品の受入れから提供までの手順と食品整理や在庫管理方法について、ボランティアが分かり易く適切に対応できるよう食品管理委員会で議論を重ね改善に努めました。企業・団体からの箱による寄贈品についても書式の簡略化を図りました。

② 有償スタッフの配置で事務所機能を充実

開所日活動の担い手と事務分担を進めるため有償スタッフを1名配置したことで、常勤役員とともに開所日のボランティアの作業や事務的処理がスムーズに行われました。また来所される地域の諸団体の方との交流の場としても開所日活動が機能できました。これをさらに充実させ、輻輳する事業展開に対応した事務処理能力を高めるとともに各種マニュアルの整備を図るため3月より有償スタッフ2名体制とすることになりました。

(2) ボランティアの参加と研修

① 開所日のボランティア参加

開所日のボランティア参加は継続して関われる方でシフトを組んで行うことができましたが、新規のボランティアの定着が少ないため、イベント時の参加も含めて積極的な募集の取組みが必要です。

② ボランティアの研修と交流

平日に活動に参加できない方もボランティア活動や研修・交流を図れるように、今年度も第4日曜を基本に開所日の活動とボランティア会議を開催しました。ボランティア会議は昨年10月から運営委員3名を中心に、「サンデーミーティング」の愛称に変えて自由討議と情報の共有、時々課題に応じて「生活保護制度」農水省の「食品の取り扱い手引書」「クラウドファンディング」の勉強会も行いました。また今年度は他のフードバンクの視察・交流では7月にフードバンク山梨を訪ね、食品管理や日頃の活動を振り返る良い機会となりました。

(3) 組織を確かなものにするために

① 事務局の企画執行機能の強化

理事会は毎月ほぼ定期的に開催し、事業の業務執行と振り返りを行って来ましたが、今年度は事務局で実質的な活動の執行機能を高めるため事務局会議を随時開催し、詳細を課題別検討会で決めるやり方で進めた。

② 組織課題の解決に向けて

昨年度ワークショップ形式で組織課題の解決に向けた議論を進めて来ましたが、理事会で優先課題を事務局機能の強化など諸会議の役割を明確化、組織図作成により共有化を図ることを決定し実施してきました。一理事の退任もあり、また今後の法人3年を経過しての総括を行う中で将来展望を見据えた課題の整理・検討を進めることとし、現在フードバンク推進協議会による組織診断を受けての取組みを行っています。

③ 組織の現状

会員の加入状況については、現在正会員52名(昨年50名)、賛助会員個人45名(昨年41名)、団体5(昨年5)で、ほぼ昨年度と同じ組織規模となっています。

④ 事業資金の確保と財政基盤の確立

会員の会費をベースに今年度は狛江市の家賃補助と中央ろうきん助成金、社会福祉協議会のあいとぴあ助成金を受けて事業を進めてきました。寄付金は個人約40名、団体は「健康マージャンこま・A」「スペース102」から合計576,308円(匿名のカンパを含む)が寄せられました。地元の企業・商店への賛助と連携の獲得を目指した訪問活動は実行できずませんでした。

しかしひとり親子育て応援の冬休み食料支援の費用は、新たな層に賛同者・支援者を広げる意味もあって一昨年から検討してきたクラウドファンディング (FAAVO) にはじめて取り組みました。結果は 22 名から目標額の 138%208,000 円の支援金を得ることができ、また新聞に取り上げられたこともあって、銀行振り込みや直接現金での寄付も 20 名 198,200 円寄せられ支援の輪を広げることができました。今後も持続可能なフードバンク活動を支えていける積極的なファンドレイジングの取り組みが必要です。

6、2018 年度活動経過 (2018 年 4 月 1 日より 2019 年 3 月 31 日)

2018 年 4 月	24	子育て支援課と夏休みひとり親支援で協議
	26	狛江市社会福祉協議会にフードドライブケースを設置
2018 年 5 月	19	第 3 回通常総会 西河原公民館
2018 年 6 月	3	こまエコ祭り
	13	民生委員正副会長会で夏休みひとり親支援の協力要請
	13	「食品ロス削減推進に関する法律案」緊急院内集会に参加
	19	第 1 回三者協議
2018 年 7 月	2	調布 FM 街角インタビューに出演
	11	フードバンク山梨の視察訪問
	14	第 1 回フードバンク狛江とつながる団体交流会
2018 年 8 月	22	第 2 回三者協議
2018 年 9 月	11	子育て支援課とひとり親支援振り返り、第 4 回理事会
	14	福祉相談課と 10 月市庁舎 FD で話し合い
	21	東都生協フードドライブ仕分け、国学院・立命館大生研修訪問
	27	こま YELL 学習支援ボランティア交流会
2018 年 10 月	2	東京南部生協フードドライブ品受入れ、
	6	くらしフェスタでフードドライブとポップコーン販売
	9	市長面談、三鷹社会福祉協議会でフードバンクの理事長講演
	15~17	狛江市庁舎でフードドライブ と世界食料デー展示
	27	日大商学部秋川ゼミ生が祖師谷商店街フードドライブ
2018 年 11 月	2	子育て支援課と冬休みひとり親支援で協議
	10	パルシステム狛江センター防災まつりに参加、フードドライブ
		クラウドファンディング FAAVO 公開 (12 月 28 日まで募集)
	16	J:COM「狛江人図鑑」に理事長出演 (12 月 1 日~5 日放映)
	18	市民まつりに参加しフードドライブとポップコーン販売
2018 年 12 月	6	朝日新聞に冬休みひとり親支援記事掲載される
	17	調布 FM 街角インタビューに出演
	28	クラウドファンディング FAAVO 目標の 138% 達成で応募終了
2019 年 1 月	24	読売新聞全国版朝刊に記事掲載 (1 月 17 日取材)
	27	ひとり親支援・FAAVO 達成報告会 & 新年会
2019 年 2 月	7	こま YELL との二者協議
	8	子育て支援課と冬休みひとり親支援振り返り
	15	東都生協フードドライブ品仕分け入荷、東海大生研修訪問
2019 年 3 月	7	こま YELL 学習支援ボランティア交流会
	8~10	中央公民館の集いフードドライブとパネル展示
	12	東京南部生協フードドライブ品入荷、
	20	第 3 回三者協議